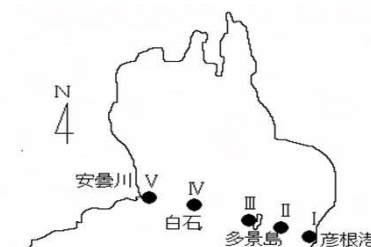


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年3月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和4年3月14日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

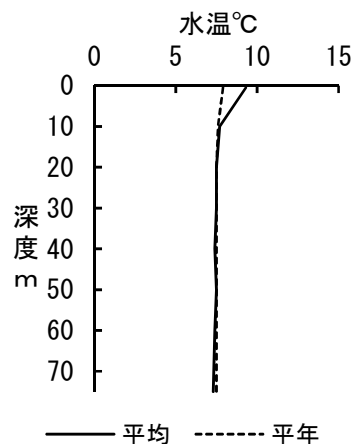
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 3月平均値 4.8m 平年値 6.4m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.3	7.9	+1.4
10	7.7	7.6	+0.1
20	7.5	7.5	+0.0
30	7.5	7.5	+0.0
40	7.4	7.5	-0.1
50	7.5	7.5	+0.0
60	7.4	7.5	-0.1
75	7.3	7.5	-0.2



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
2月下旬	6.5	7.2	-0.7
3月上旬	7.8	7.8	+0.0
3月中旬	9.4	8.3	+1.1

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	4.3	5.3	-1.0
10~20	1.6	2.3	-0.7
20~40	0.9	1.8	-0.9
40~75	0.4	1.4	-1.0

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、地点1では*Asterionella formosa* (ホシガタケイソウ:珪藻)が、地点2~5では*Aulacoseira ambigua* (アウラコセイラ:珪藻), *Aulacoseira nipponica* (アウラコセイラ:珪藻)などの珪藻が多く確認されたが、*Micrasterias hardyi* (ミクラステリアス:緑藻)や *Staurastrum dorsidentiferum* (スタウラスツルム:緑藻)などの大型の緑藻類も量的には多くを占めている。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生やコペポデイド期幼生および*Kellicottia longispina* (トゲナガワムシ:ワムシ類)が個体数密度で多く確認された。



Asterionella formosa



Aulacoseira ambigua



Aulacoseira nipponica



ノープリウス期幼生



コペポデイド期幼生



Kellicottia longispina

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	3月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	12.1	108.8	11.5	100.0	0.6	(+8.8)
10	11.7	101.1	11.4	98.2	0.3	(+2.9)
20	11.3	97.5	11.3	97.3	0.0	(+0.2)
30	11.4	97.9	11.2	96.8	0.2	(+1.1)
75	10.8	92.8	10.7	92.8	0.1	(+0.0)